

スズキ、インド・マネサール工場にて バイオガスプラントを稼働

-ネピアグラス等を活用し、工場のカーボンニュートラルに貢献-



スズキ株式会社のインド子会社、マルチ・スズキ・インディア社（マルチ・スズキ）は、ハリヤナ州マネサール工場にて、バイオガス精製のための試験的プラントを設置しました。2024年6月より稼働を開始しました。

当施設は、実用プラントとほぼ同等の機能を持った試験的なパイロットプラントで、マネサール工場の敷地内で栽培されたネピアグラスと呼ばれるイネ科の多年草、および工場食堂で出た残飯を原料としてバイオガスを発生させます。ガスは同プラント内で精製され、工場の食堂での調理や生産工程で活用します。また、残渣は有機肥料として工場内でネピアグラスの栽培等に使用されます。

このプラントでは1日 0.2 トンのバイオガス精製を見込んでおり、このガスの活用によって年間約 190 トンの CO₂ の削減を見込みます。

マルチ・スズキは、各工場への太陽光パネル設置や、グリーン電力の採用など、様々な形で再生可能エネルギーの活用を進めてまいりました。今後マルチ・スズキは、2024年度から3年間で、計 45 億ルピー（約 79 億円）を再生可能エネルギー関連事業に投資し、CO₂ の削減に取り組んでまいります。

スズキグループはバイオガス事業などの再生可能エネルギーを通して環境負荷の軽減を図り、カーボンニュートラル社会の実現に向けて取り組んでまいります。

以上